「行動療法研究」執筆要領（2015年4月22日改定）

1. 本誌に掲載される論文は、原則として学会会員により執筆された行動療法に関する未公刊論文とする。
2. 本誌への投稿論文は編集委員会によって審査され、その掲載の可否が決定される。
3. 本誌への投稿論文は、原著、資料、展望、実践研究、編集委員会への手紙の5つのカテゴリーとする。
4. 原著論文は、単一例もしくは複数例を対象としたものも含めて、独創性のある実証的、または理論的な論文とする。
5. 資料論文は、内外諸研究の追跡的検討、データベースの作成、装置の開発等資料として価値のある研究、新しい治療の試み、あるいは、分析方法の提案などを報告する論文とする。
6. 展望（総説）論文は、重要な課題についての内外諸研究を広く検討し、独自の観点から総合的ならびに客観的論文とする。
7. 実践研究論文は、医療、教育、福祉など実践を通じての研究論文で、実践上の問題を明示し、解決をめざした論文とする。独創性・理論性は厳しく問わないことにする。
8. 編集委員会への手紙は、本誌の内容に対する意見とする。掲載された論文に対する意見の場合は、原則として刊行後一年以内の論文に限る。意見の対象となった論文の著者に対して、編集委員会から返事の投稿を依頼することができる。
9. 原稿に記述された内容は、一般的な臨床・研究に関する法令や倫理規定に従っていなければならない。
10. 原稿に、執筆者以外が著作権を保持する著作物の相当部分（評価尺度全体など）の引用や翻訳が含まれる場合は、その著作および著作権者から許諾を得たことを示す書類（電子メールも可）のコピーを添えて投稿するものとする。
11. 投稿論文の枚数は、いずれのカテゴリーにあっても、32字×25行で20枚以内か5,000字以内（要約、英文要約、図表、文献、脚注等を含む）とする。ただし、編集委員会への手紙は4枚以内とする。規定枚数・字数を超えるしている原稿は、審査の対象とならない。
12. 原稿は原則としてオンライン投稿システムによるものとする。システムは以下のURLにある。https://www.wdc-jp.biz/jabt_journal/journal/applicant/login_1.html
13. 投稿論文は英文で作成することができる。原稿の枚数は、A4判ダブルスペースで20枚以内（サマリー、邦文要約、図表、文献、脚注等を含む）とする。
14. 投稿に際しては、著者全員がその論文内容に責任を有することを明示し、署名した「投稿承諾書」を原稿に添付するものとする。
15. 論文表題、筆者名、所属機関名、ならびにその他の英訳を表紙として別紙に記述する。
16. 投稿者は投稿論文の表紙に投稿論文のカテゴリー名を明記する。
17. 編集委員会への手紙を除き、いずれの論文カテゴリーにあっても、400字以内の日本語要約、および5語以内の日本語キーワードをつけるものとする。
18. 編集委員会への手紙を除き、いずれの論文カテゴリーにあっても、200語以内の英文要約、および5語以内の英文キーワードをつけるものとする。
19. 編集委員会への手紙を除き、いずれの論文カテゴリーにあっても、論文表題を簡潔にまとめた25字以内のヘッダーを投稿論文の表紙に明記すること。

[例] 相川・土屋・原田他：総合医学的特徴

－112－
松岡・野呂・小林：自閉症における道具に関する要求言語行動の形成
20. 図表は、日本語のほうが適切と思われるものの解説原則的に英文とする。
（1）図表は、日本心理学会の執筆・投稿規定（http://www.psych.or.jp/publication/inst.html）などに準拠して作成する。
21. 文献の引用は必要最小限とし、その記載の方法は以下の要領に従うものとする。
（1）文献を本文中に引用する際は、筆者の姓、名、出版年等を明記する。同姓のため、混同のないか確認する場合には、日本語では名を、英語ではイニシャルを添える。
（2）名の筆者の場合は、引用のたびに対し同筆者の姓を書く。3名以上であれば、第1筆者の姓を書き、の筆者は「et al」と略す。英語の場合は、「et al」と略す。同じ第1筆者が同年に発表した文献を省略する場合は、区別できるまで第2筆者以下の姓を書く。
（3）日本語の場合、姓の区切りには「・」（中黒）を用いる。
22. 引用文献リストの作成は、以下の要領に従うものとする。
（1）引用文献は本文の後に、「引用文献」として、筆頭著者の姓のアルファベット順に並べる。同姓の者が複数いる場合は、名のアルファベット順にする。
（2）同じ筆頭著者の複数の論文を引用する場合は、筆者を先にし、共著は第2著者以下の姓のアルファベット順にする。
（3）同一著者の筆著、あるいは同名著者の共著が複数ある場合は、刊行年次順とする。
（4）文献記述の書式は次のとおりである。なお、筆者名はすべてを書き、雑誌名は略さない。欧語書籍では出版地を書く。
i. 雑誌論文では、筆者名刊行年論文題目雑誌名、巻数（必要であれば号数）、最初のページ最後のページを記す。
ii. 書籍では、著者名刊行年齢書籍名（欧語書籍では出版地）出版社を記す。
内山喜久雄 1988 講座サイコセラピー 第2巻 行動療法 日本文化科学社
iii. 書籍の特定の章では、筆者名刊行年論文名著者名書籍名（英語書籍では出版地）出版社Pp最初のページ最後のページを記す。
iv. 翻訳書では、著者名訳者名訳書刊行年書籍名訳書出版社（括弧内に翻訳者の記名に従い原書籍の情報を記載する）
v. 翻訳書の特定の章では、著者名 訳者名 訳書刊行西暦年 論文名 編著者名 監訳者名 書籍名 出版社名 Pp. 最初のページ-最後のページ（括弧内に書籍の原記に従い原書籍の情報を記載する）

23. 脚注は必要最小限にとどめ、記載する場合には、本文の該当欄に右肩付けて注1) 等と記載し、脚注そのものは別紙に記載する。なお、脚注も書言字数に含むものとする。
24. 略語は原則として一般的に利用されているものに限り、論文中で特有の略語を用いる場合には、別出の箇所にそのフルネームと略語を記載する。
25. 図表の挿入箇所は、原稿本文右の空欄に指定すること。
26. 校正は、初校を著者、再校以降は編集委員会で行う。
27. 本誌に掲載された論文の原稿等は返却しない。